

平成30年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第2回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	平成30年7月17日(火) 午前10時から12時
開催場所	男女平等推進センター 洋室D
出席者	【委員7人】 小松原会長、江川委員、折登委員、大畑委員、安藤委員、 佐藤委員、谷本委員 【区側9人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員4人) 育成課(育成課長、管理係長、職員1名)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認等を行った)

2 事務事業の概要説明及びヒアリング(ファミリーサポートセンター運営委託)

(育成課より「ファミリーサポートセンター運営委託」の概要について説明をした後、質疑応答、議論)

A 委員 : サポート会員は、1度に複数人サポートできるのか。

育成課 : 1回のサービス提供では、1人のみである。

B 委員 : トラブルや事故に関してどのような対策をとっているか。

育成課 : サポート会員の登録は、研修の受講が前提となっており、必要な事項を研修で習得してもらっている。また、委託先の社会福祉協議会において、保険の加入手続きを行っている。

C 委員 : 子どもを預かる場所は、区の施設でも良いのか。

育成課 : サポート会員の自宅が基本である。

D 委員 : ファミリー会員の家も預かる場所に加えることができないか。

E 委員 : 預かり場所として、児童館との連携も模索してはどうか。

育成課 : 基本的にはサポート会員の自宅で預かるが、例外的に他の場所でも預かり可能であったものが、今年度の厚労省の要綱改正で、ファミリー、サポート両会員の合意があれば、ファミリー会員宅、児童

館等での預かりも可能となった。

D 委員 : どの自治体でもこの事業の仕組みやサービス内容は同じか。

育成 課 : 自由が利く部分について、報酬やサービス内容に若干の差がある。

小松原会長 : 急用が発生して当日お願いしても対応できるものなのか。

育成 課 : サポート会員が対応できるということであれば可能である。なお複数のサポート会員からサービス提供を受けているファミリー会員もいる。

小松原会長 : ブロックごとにマッチングが行われているのか。

育成 課 : ブロックを越えてのマッチングもある。

A 委員 : 同じブロック内であっても、ファミリー会員の自宅からサービス提供場所までが地理的に遠いためにサービス提供が困難な場合もあると思う。ブロック内でのサポート会員の偏在はないか。

育成 課 : ブロック間の偏在と同様に、ブロック内の偏在も課題だと認識している。

E 委員 : サポート会員を何人まで増やしたいのか。

育成 課 : 理想的には、今の倍程度まで増やしたいと考えている。

D 委員 : マッチングできずに利用を断った件数は。

育成 課 : 集計していない。

D 委員 : ニーズに応えられているのかなどが分析できると思うので、どのようなケースでマッチングに至らないことが多いのか、社会福祉協議会に聞き取ってほしい。

B 委員 : マッチングできていない事例の分析は必要だと思う。

小松原会長 : 同様に、ニーズに対応できているかという視点から確認したいのだが、登録者数と利用件数との関係性に地域差はあるか。

育成 課 : 地域差はなく、登録者数が多ければ利用件数も多い。

A 委員 : アドバイザーはどのような方が何人いるのか。

育成 課 : 非常勤職員が3人で、ローテーション勤務している。

B 委員 : アドバイザーの技量には個人差があると思う。ニーズに応じていくためにも、技量の底上げをしていくことも重要だと考える。

D 委員 : 6か月児からではなく、さらに低月齢から対象としてはどうか。

育成 課 : サービスを提供する側のことも考えた制度となっているため、一定の条件を設けている。

D 委員 : 家事援助はしてもらえないか。

育成 課 : 社会福祉協議会において行っている「しあわせサービス」で、サービス提供している。

F 委員 : 保健センターでも育児のサポートをするような仕組みがある。

小松原会長：複数の事務事業でニーズをカバーしているということであれば、全体がわかるように説明をしてもらいたい。

D 委員：ファミリー会員の実利用人数と、サポート会員の実稼働人数は。
育成課：平成29年度では、1回以上利用されたファミリー会員は247人、1回以上サービス提供をしたサポート会員は101人である。

小松原会長：会員登録は、毎年更新しているのか。

育成課：そのとおりである。

D 委員：富裕層ばかりが利用しているなど、利用者に偏りがいないか。

育成課：利用者の所得は聞いていないため、わかりかねる。

F 委員：利用者側にこの制度が知れわたっていない、ということはないか。
サポート会員の名簿を公開するなど、さらに周知していけないか。

育成課：ファミリー会員は増加しているため、少しずつ認知は広がっているものと考えている。なお、名簿などの個人情報については、公表は困難だと考えている。

小松原会長：区外在住で区内在勤のファミリー会員はどの程度いるか。

育成課：会員の内訳は集計していない。

C 委員：補助金はサポート会員に渡るのか。

育成課：補助金は、ファミリー・サポート・センターの運営経費などに対するものであって、サポート会員には渡らない。

E 委員：1時間800円という待遇の改善を考える必要があるのではないか。

C 委員：料金設定が安いと感じるが、他の自治体も同様か。

育成課：区独自に設定した金額である。

E 委員：最低賃金くらいはあっても良いのではないか。

小松原会長：有償ボランティアという位置づけだからこの料金設定にしているものと思う。

F 委員：相互援助の趣旨から考えると、地域からの情報が重要だと思う。
民生委員などから、サポート会員の担い手がいないか、地域の情報を得て、働きかけてはどうか。

D 委員：サポート会員にもメリットがあった方が良いのではないか。例えば、ファミリー会員の感謝の気持ちがわかるようなビデオメッセージを作る、長くサポート会員として活動した方には何か送るなど、工夫ができないか。

小松原会長：サポート会員だった方に、再登録してもらえるように勧誘をしたり、どのようにすればサポート会員として活動できるかを聞いてみて反映するなどしてはどうか。

D 委員：サービス内容も含めて、他自治体の好事例はないか、独自事業で

あっても先進事例ないか、調べてみてほしい。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会